

第97回 火力専門委員会 構造分科会 議事録

- I. 日 時：2017年8月23日（水）13時30分～17時20分
- II. 場 所：日本機械学会 第3,4会議室
- III. 出席者：飯田（東電FP）、西野（配管技術研究協会）、西田（MHPS 長崎）、豊嶋（MHPS 呉）、
関根（IHI）、黒川（KHI）
- 代理者：なし
- オブザーバー：芝（関西電力）、松浦（中部電力）
- 欠席者：野呂（富士電機）、田村（MHPS 日立）、太原（東芝）
- 事務局：原

IV. 配布資料

- 97-1 第96回構造分科会議事録（案）
- 97-2 構造分科会委員名簿
- 97-3 規格委員会書面投票 No.373（高クロム鋼関係）結果報告
- 97-4 用語集（映写のみ）
- 97-5 規格委員会書面投票 No.373 の書面投票意見対応（97-3 に含む。）
- 97-6 欠番
- 97-7-1 レビュー票（東電FP、V章 APPENDIX D、ダブルチェック結果反映）
- 97-8-1 新旧対比表（川崎重工、Ⅲ章 V章）
- 97-8-2 新旧対比表（中部電力、Ⅲ章）
- 97-8-3 新旧対比表（東電FP、Ⅲ章）
- 97-8-4 新旧対比表（MHPS 長崎、Ⅲ章）
- 97-9 審議履歴表

V. 議題

1. 前回議事録確認 [資料 97-1]
前回議事録（案）の確認を行ない、議事録案は承認された。
2. 分科会委員・役員の承認 [資料 97-2]
妹尾委員の退任が報告された。新任委員候補として、芝氏（関西電力）と松浦氏（中部電力）が報告され、出席委員全員の賛成により次回火力専門委員会へ推薦することが承認された。
3. 報告事項 [資料 97-3]
 - (1) 規格委員会書面投票 No.373 結果報告 [資料 97-3]
規格委員会書面投票 No.373 について、投票結果、構造分科会に関係する書面投票意見とその対応案、意見対応による修正案について、報告があった。
○この意見対応による修正案は8月28日の火力専門委員会および9月7日の規格委員会で審議され、承認されれば9月中旬以降パブコメを実施する予定。

4. 審議事項

(1)用語集の確認

[資料 97-4]

3分科会共通の用語集について、前回の宿題となっていた1ヶ所の確認を行った。

o dished head、dished cover については、それぞれ成形鏡板、成形ふた板とする。

(2)レビュー票ダブルチェック反映審議

[資料 97-7-1]

o V章 APPENDIX D 表 D-1 フレキシビリティ、応力増大係数

飯田委員から、V章 APPENDIX D 表 D-1 について説明があり、審議を行った。

表 D-1 における、ASME B16.9 による溶接ティー、同心レジューサ、B16.25 によるテーパのついた結合について、JIS 規格材に対しても使用できるかを確認するために、メーカーの委員を中心に、以下の点などから調べることにした。（次回分科会までの宿題）

- ・ ASME B16.9 と B16.25 の内容を確認し、表 D-1 の係数に関係する寸法・公差等の規定・制限が JIS 継手規格と比較してどうか。
- ・ B31.3 を参照している JPI-7S-77 ではどうしているか（JIS 材の扱い）。

<意見、コメントなど>

- ・ 表 D-1 において、ASME 規格の指定を無くし、JIS 材にも使えるようにしたい。
- ・ フレキシビリティ解析のソフトで使われているのは世の中でこの表だけである。したがって、設計者の判断により慣例的に、JIS の製品でも同じ係数を使っている。このため、実質的には問題ないと思われるが、係数の算出根拠が分からないので、技術的な裏付けを持って JIS 材に対しても使用できると規格に書き込むことは難しいのではないか。

(3)新旧対比表の確認（Ⅲ章、V章）

1) Ⅲ章 PG、V章 105～116（川崎重工）

黒川委員が主要な改訂箇所を説明し、審議を行った。

o Ⅲ章 PG-42.4.7 のど部の脚長 → のど厚 は、誤記修正。

o Ⅲ章 PG-52.1 PG-32.1.2 に項を追記。

o V章 105.2.2(D)、105.3(E) 追加部分についてレビュー票を確認し、「ASME 改訂の反映」、「規定の追加」等にする。

o V章 表 112 注(3) 「29℃」→「-29℃」に修正する。

o 改訂内容の記載欄において、各改訂内容は項目ごとに改行する。（他にも含めた、全体の記載方法の確認。）

2) Ⅲ章 PW、A360～383

松浦委員が主要な改訂箇所を説明し、審議を行った。

o 項の追加は、「表現の見直し」に統一する。（全般）

o ASME の SI 値を採用したものは、「数値の見直し」ではなく、「ASME SI 値の採用」とする。

o PW-53.2 201X 年版改訂案の見え消し部分は記載しない。

溶接金属 → 溶接する鋼板 は、誤記修正。

- PW-53.9.5 ゲージ長さ 用語の定義が図から分かるので、JIS 用語（標点距離）に合わせなくても良いことを確認した。
- PW-53.9.5 19.0mm 以下の場合 → 19mm 以上の場合 は、誤記修正だと思われるので、確認し、必要に応じて改訂内容欄の記載を修正する。

3) Ⅲ章 PW

飯田委員が主要な改訂箇所を説明し、審議を行った。

- 他に合わせて、改訂内容の欄の各項目の頭に付けた「・」は取る。
- PW-9.3.1 改訂内容欄の「タイトル追記」→「説明の追記」に変更する。
- PW-11.2 表 PW-11 の使用のため → 表 PW-11 および本章の他の場所での使用のため 改訂内容欄の「規定追記」→「説明の追記」に変更する。
- PW-16.6 「部分溶け込み溶接またはすみ肉溶接で」の追加について、「説明の追記」に変更する。
- PW-16.7 「規定の追加」とする。

4) Ⅲ章 序文、PW、PHRSG

西田委員が主要な改訂箇所を説明し、審議を行った。

- 改訂前における改訂箇所部分には、削除したものを含めて、下線を引く。（全般）
- 序文、PW-28.1.3 「説明の追記」は、「ASME 改訂の反映」とする。
- PW-27.3 「項」の追記が有るので、「表現の見直し」とする。

5) 全般的な確認事項

- 脱字（例：PG-52.4→図 PG-52.4）は、誤記修正とする。
- 弁とバルブの表現の統一は、今回の改訂ではこれ以上は行わない。現時点の表現のままとする。
- ASME 規格の paragraph を指定している箇所で項が記載されていない箇所は、「項」を追記する。
- 左側の旧の欄の年版は、2015 追補とする。
- 「または、又は」、「および、及び」等は文書規定が制定されてからの反映とすることを確認した。

(4) その他

審議履歴表の一番右側に「新旧対比表」の欄を作成し、進捗が確認できるようにする。

■今後の進め方

- 引き続き、メールベースで連絡を取りながら、レビュー票のダブルチェック結果反映の作業を進める。
- ダブルチェック結果反映が完了したところは、新旧対比表を作成する。新旧対比表作成の

優先順位は、Ⅲ章 → V章。

- 作成した新旧対比表は、次回分科会の会議資料に保存する。次回の分科会までにⅢ章の新旧対比表を完成させ、できればV章も完成させることを目標とする。
- 分科会にて確認済みの新旧対比表は、コメントなどを反映後CSキャビネットの所定のフォルダに保存する。保存するフォルダは、事務局が別途連絡する。

5. 次回開催予定

日 時：11月8日(水)、10日(金)の候補日の中から、欠席委員のご都合を確認して選定。

開催時間はいずれも、13時30分～17時。

場 所：日本機械学会 会議室

以 上